

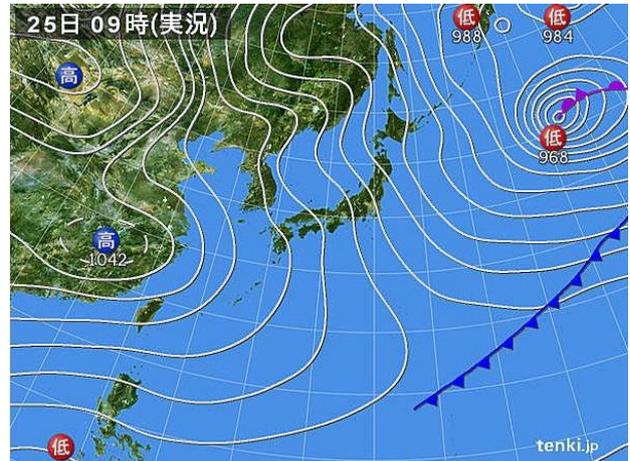
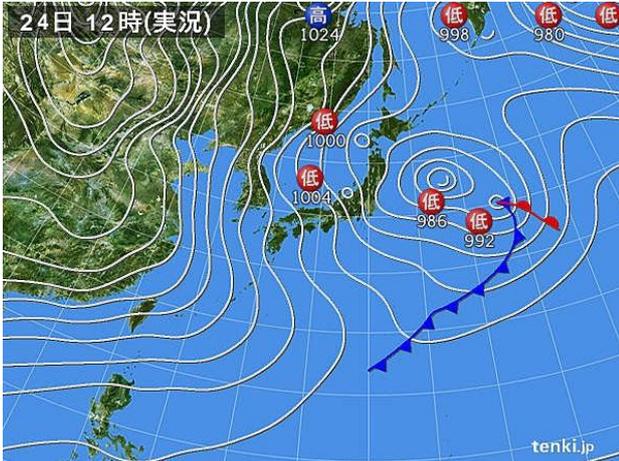
積雪期 高原山縦走（明神岳往復）

日 程 2016年1月24日(日)～1月25日(月)

メンバー CL上小牧、SL川上、荒井、齋藤（記録）

天 気 1月24日 晴れ時々雪

1月25日 風雪後晴れ



行 程 ハンタマ駐車場←→明神岳北西尾根往復

（1日目6時間・2日目2時間50分、行動時間のみで移動時間含まず）

高原山は東北道を北上しているとはっきりと分かる独立峰のような山塊である。我々栃木県民にとっては南面に八方ヶ原、北面にハンターマウンテン・エーデルワイスのスキー場のあるなじみの山だ。高原山は主峰鶏頂山を有する複数の峰々の総称である。この高原山が火山だと上小牧さんから教えていただいた。塩原等の温泉は高原山の恩恵を受けている。

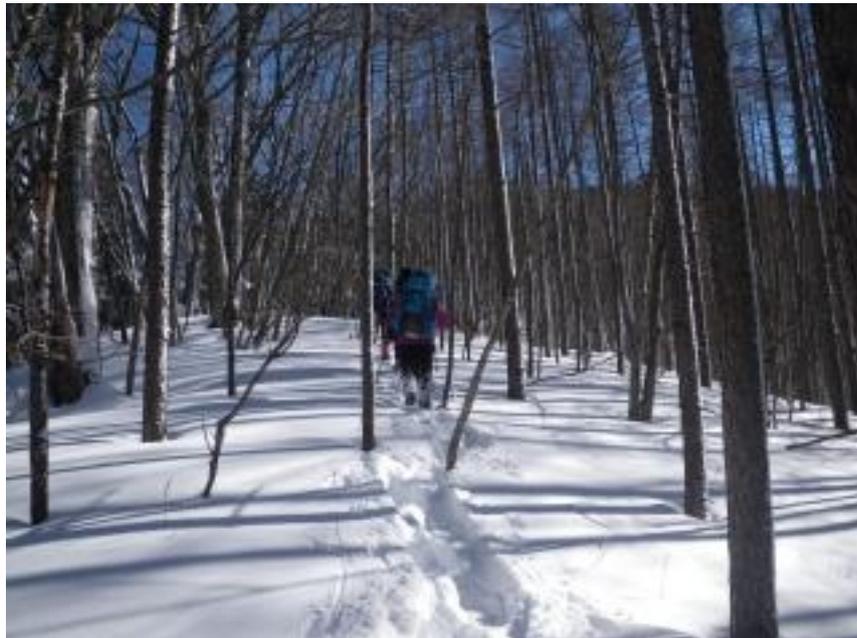
今回の山行は上小牧さんをリーダーとして女性会員の雪山の経験を深めることが趣旨だったのだが私も久しぶりにテントを担いで雪山縦走を味わいたいと思い後からメンバーに加えていただいた。久しぶりのジャンボテントの歩荷に妙な嬉しさが湧く。

予定ルートは前黒山から鶏頂山を経て学校平まで抜けるため川上さん、荒井さん、齋藤は大谷で集合し上小牧さんとは現地の学校平で待ち合わせる。車を1台デポし上小牧さんの車で全員日塩道路の空沢林道へ向かう。車中ではExtremeのロックなナンバーが流れまさにエクストリームでロックな人生の上小牧さんにぴったりだ。

現地に着くと空沢林道は雪で閉ざされ入れない。仕方がないのでハンタマの駐車場へ駐車することとなった。駐車場では縦走用のザックを背負った我々は全くの異質な存在だ。ウキウキのスキーヤーを横目に我々もウキウキ(?)しながらスタート、20分ほど日塩道路を歩き雪に埋もれた林道へ取付く。



暖冬でヤブこぎを覚悟（期待）していたのだが思った以上のワカンのラッセルである。4人でラッセルを交代しながら登るが傾斜はさほどではないもののペースはあがらない。1300m付近で地形の違いに気付く。向こうには予定の前黒山の尾根が見える。どうやら1本手前の尾根に入ってしまったようだ。仕方がないのでそのまま明神岳を目指す。



雪は相変わらず深く乾いているため傾斜のある斜面では苦勞する。途中立った斜面では上小牧さんが直登にこだわる。その後ろ姿にクライマー一魂を感じる。（でも雪が固まらないので他3人は巻いてしまった。人生は攻め続けなければならないのか。。）



程なくしてハンタマのゲレンデの脇の尾根に出る。脇ではボーダーが颯爽と滑っていく中ゲレンデ上部付近の斜面は所々ウインドクラストしていて足を置くと割れるのか割れないのか分からない焦らしプレーにあう。あくせくしながら取付きから約6時間で明神岳のピークへ到着だ。ピークはちょうどテントも張れそうだし展望台もあり今日の宿はここに決定する。4人で肩を組みワカンで踏みしめ整地作業をする。これを怠ると今日のテント生活と寝心地の良し悪しが左右されるので大事な作業である。無事ジャンボを張り今日の御殿が完成する。(嗚呼、これでやっと酒が飲める♪)



夜は待ちに待ったすき焼きパーティーだ。上小牧さんのザックから大皿の肉が出てきて一気にテンションが上がる。まずはビールで乾杯。川上さんが大事に歩荷してくれた生卵をとりてすき焼きをほおぼる。ビールとすき焼きがすきっ腹にしみわたり何とも言えない幸福感

に包まれる。居酒屋明神の始まりだ。上小牧さんは早々にワインに、私はウイスキーに切り替える。すき焼きは鍋で3回ほど食べられた。すき焼きが終わると今度は皆のザックから様々なつまみが出てくる。これもまた美味しいくさらに酒が進む。荒井さんの持ってきたゆず酒も美味しかった。この日の夜はメンバーで本当によく飲んでよく話した。たまにはこんな楽しい雪山での一夜もいいものだとしみじみ思った。



翌朝は風雪になった。天候とコンディションと残りの行程から2日目は来た尾根をそのまま下山することとした。昨夜からの降雪で昨日のトレースは下り初めて程なくして消えていた。

下山は特に問題になるところもなく無事ハンタマの上部の駐車場へ出て終了となった。



下山後デポした車の回収のため学校平まで移動する。矢板側の平地は晴れていたが高原山

の稜線にはずっと雲がかかっていた。独立峰のような高原山は寒気や西高東低の気圧配置の影響を受けるのか西側は日本海、東側は太平洋のような天候になるのかもしれない。

最後に矢板の城の湯で温泉に入り2日間の疲れを癒し、上小牧さんと大谷集合組はここで解散とした。

また機会があればこのメンバーで冬期高原山の馬蹄形縦走を成し遂げたい。

(記録：齋藤)